

洗ってみたら、まっ白だったもの・・・

2学期になって西側のトイレが新しくなり、とてもきれいになりましたが、実はもう1つ上尾橋高校の中でとてもきれいになった場所があることに気がついていませんか？それは中庭です。

校舎にぐるりと囲まれている中庭は、校舎や大きな木のかげになってあまり日が当たらないせいか、床材の模様のみぞにびっしりとコケが生えていて、うす暗い感じがする場所でした。ただその風景が「あたりまえ」になっていて、「おかし」と思うことも無ければ「変えたい」と思うこともなかったし、^{じばんらんか}地盤沈下(校舎よりも地面が低くなっている)で水がたまりやすい形になっていたので、「仕方がないことだ」と思っていました。

しかし、今年の夏に業務主任さん(学校の中の設備の修理をしたり、きれいにする仕事をする人)

が、この中庭のコケをキレイにするためのおそうじを始めたのです。使う道具は特別なも

のではなく、家庭用の水をふき出して汚れを流す^{こうあつせんじょうき}高圧洗浄機。

ホースの先から出てくる水を当ててコケや泥を洗い流すという、単純だけど、きれいにな

るまでにどれだけ時間がかかるのかわからない、気が遠くなるような作業が始まったのです。

さて、作業を始めて驚いたことがありました。それはまっ黒だと思っていた床が、実はまっ白だったということです。

まだ洗っていないところはコケの緑色と泥の黒色。一方、きれいに洗い流したところはまっ白で、まるで白と黒の模様のようにでした。中庭は保健室の目の前なので、毎日毎日、業務主任さんが作業している姿を見ていましたが、まっ黒だった床が少しずつ白くなっていくにつれて、中庭そのものが明るくなっていくのを感じていました。

その作業は簡単なものではなかったと思います。途中、天気が悪い日が続いたときには、またコケが少し生えてしまったことがありました。それでも毎日少しずつ洗い続けた結果、9月の初めには、泥とコケにおおわれてまっ黒だった床は、みちがえるようにまっ白になりました。だれも知らなかった、中庭の本当の姿に戻ったのです。

もし業務主任さんが床を洗わなければ、だれも、中庭の床がまっ白だったことを知らなかったでしょう。

わたしは毎日毎日、1枚1枚きれいに洗い流され、少しずつ白く変わっていく中庭を見ているうちに、人も同じではないか・・・と思いました。生まれたときはまっ白な心で^{むげん}無限の可能性をもち、前向きで一生懸命だったのに(やりなさいと言

われなくても、寝返りが打てるように練習し、立ち上がり、必死になって歩こうとする)、「やったけどできない」とか「やってもだめだった」という失敗体験や、「めんどうくさい」「やりたくない」「どうせ無理」というマイナス思考という泥が心に積もって、暗い心になっている人はいませんか？

それに加えて「SNS依存やネットトラブル」「ゲーム依存」「昼夜逆転」「無気力」というコケが心に生えてしまって、自分はこういう人だから仕方がない、変わるなんて無理と決めつけている人はいないでしょうか。自分で自分に「どうせ無理」「もともとこういう人だから」と決めつけてしまったら、中庭の床を「どうせ汚いもの」「まっ黒なもの」と思いこんでいたように、自分を変えようと思うことさえできないかもしれません。でも「少しでも変わりたい」

と思って自分を洗ってみがいていくと、中庭のまっ黒い床の下からまっ白な床が出てきたように、自分でも気がついていなかった自分、本当はもっとがんばれる自分、自分でも気がついていなかった自分の良いところが目に見える形で表れてくるかもしれません。ただそのためには、業務主任さんが1枚1枚床を水で洗ったような地道な努力が必要です。ときにはずぶぬれになったり、泥まみれになったりするような、つらい思いをすることがあるかもしれません。せっかくきれいになったと思ったのに、またコケが生えてくるようながっかりした気持ちになるかもしれません。でも、始めたときには、「自分は絶対にできない」と思ったとしても、目の前のことを1つ1つ、たとえば毎日遅刻をしないで学校に来る、授業に参加する、提出物を出す、「おはよう」、「さようなら」、

「ありがとう」、「ごめんなさい」というあいさつを大切にすることで、

少しずつあなたは変わっていくことができるのです。



私が好きなミハエル・エンデのモモというお話に出てくる、ベッポという道路そうじのおじさんはこう言っています。



「自分はとっても長い道路のそうじを受け持つことがあるんだ。おそろしく長くて、これじゃとてもやりきれないと思ってしまう。でもそういうとき、そうじする道路全部のことを考えてはいかん。わかるか？

次の一歩のことだけ、いつも、ただ次のことだけを考える。すると楽しくなってくる。これが大事なのだ。楽しければ仕事が上手くはかどる。ひょっと気がついたときには、そうやって一歩一歩進んだ道路のそうじは全部終わると。どうやってやりとげたかは、自分でもわからないし、息もきれていない。これが大事なのだ。」



ベッポおじさんがいうように、自分がやらなくてはいけないことを全部とか、先のことばかり考えているとやる前から嫌になってしまうので、とりあえず目の前のやるべきことだけ考えて、目の前のやるべきことをやっていくことが大切ということです。たとえば宿題15ページをやらないといけなと思うと、できない、無理！と思ってしまふけれど、とりあえず1ページだけやってみよう。それが終わったら、次の2ページだけやってみよう・・・とやっているうちにいつのまにか前に進んでいて、すごく大変だと思っていた15ページの宿題が終わっていくのと同じです。

それは上尾橋高校で過ごす3年間も同じかもしれませんが、ベッポおじさんはこう言っています。「ただ次のことだけを考えていると楽しくなってくる。楽しければ仕事はかどる」・・・ここで大切なのは「楽しくなるかどうかは自分次第」ということです。保健室にも「学校が楽しくない」「楽しくないからやめたい」という相談がたくさんありますが、先生たちの仕事はみんなを楽しませることではありません。友だちも、あなたを楽しませるためにいるわけではありません。楽しませてくれない、自分に声をかけてくれない、自分にやさしくしてくれないと、誰かが自分のために何かをしてくれるのを期待しているうちは、前には進めません。自分が自分で一歩ずつ前に進んでいく中で、自分の心が変わっていくのです。ただ、自分を変えるために努力するというのは大変で疲れるものです。「めんどうくさい」としてしまう心の泥や、「SNSやゲーム依存」などの心や体のコケが多すぎて、もう自分の力だけではきれいにできない人がいるかもしれません。でも上尾橋高校には、あなたにこびりついた泥やコケを洗い流す方法を教えてくれたり、洗い流すのを手伝ってくれたりする先生がいます。「もういやだ」「やめたい」「無理！」と思った時に、励ましてくれる先生や友だちがいます。そして、また、心に泥やコケというマイナス思考が生えないために、話を聞いてくれたり、違う考え方ができるように手伝ってくれる、専門のスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーもいます。



今、自分が提出していないたくさんの課題や、出なければ進級や卒業があぶない授業を見て、^{とほう}途方にくれている(どうしていいかわからない)人はいませんか？全く手をつけないうちから、もういやだ、絶対無理だとあきらめようとしている人はいませんか？「いやだいやだ」「疲れた」「やりたくない」と言うだけでは一歩も進みませんが、「いやだ」「疲れた」「やりたくない」と文句を言いながら、手や頭を動かし、ぶつぶつ言いながらも課題や勉強に取り組めば、必ず前に進みます。ベッポおじさんも「次の一歩の事だけ、いつも、ただ次の事だけを考えるのだ」と言っていますが、それをくり返しているうちに高校生活3年間が終わって、ひょっと気がついたときには、卒業証書を手にしているかもしれません。

期末テストが終わってほっとしている人も多いと思いますが、進級卒業に向けて、目の前にある、やらなければいけないことを1つずつやっていきましょう。自分を洗ってみたら(上尾橋高校でコツコツ努力してみたら)まっ白だった、全く違う自分に出会えた、という体験を、ぜひしてほしいと思います。

もし、わかっているけどできないと途方にくれている人がいたら、保健室に来てみませんか？一緒に、最初の一歩を踏み出してみよう。

